

「たそだて」で、他人の子どもも、

多くの人の手で楽しく育てる

■「社会で育てる」「地域で育てる」必要性は何でしょうか。

私は、どうしてこんなに子育てしにくい社会になってしまったのかと思います。産んだその日から、こんなにも大きな不安を抱える時代が過去にあったでしょう。子どもは家庭の中だけでなく、「社会で育てる」「地域で育てる」必要があると思います。

今、私は「たそだて」を提唱しています。「こそだて」の「こ」の左上に「十(プラス)」をつける。「た」になり、「たそだて」になります。「たそだて」とは、「多くの人が関わり「他人」の子どもと一緒に「楽しく」育てることです。今までの「こそだて」にプラスすることで、子育てがもっとハッピーになると考えています。

最近、「怒らない子育て、待つ子育て」と言われますが、わが子に対しては難しい。自分の子と他人の子、どちらに対して「待つ子育て」ができるかというと、他人の子に対してのほうがやりやすい。家に子どもが遊びに来たとき、わが子だけのときを比較すると、わが子だけのときのほうが怒る回数が多い



なりがちです。最近では親子がいつもセツトで他の子どもの面倒を見る、「面倒を見てもらう機会が減っています。たまには、「わが子を含めて他の子もみる」ことをすることで、「怒らない子育て、待つ子育て」ができるかもしれないと思います。

そしてそれが虐待の予防にもつながると思います。自分の子どもだけに関わっていると、怒りがどんどんとエスカレートしまい、ストンプがきかなくなってしまう。そんなときに他人とのつながり、他人がわが子をほめてくれることなどがあれば、抑えられることもあるのではないかと考えています。

おじいちゃんやおばあちゃんや孫の友だちや知り合いの子にも声をかけるなどしていけば、「社会や地域で育てる」につながり、みんなに笑顔が増え、ハッピーになると思います。

■社会や地域におけるイクジイについて教えてください。

イクジイというのは、家庭的なイクジイもありますが、今いちばん求められているのは社会的なイクジイです。今の子どもたちは、自分が人とつながっていく実体験が本当に少ないです。隣やその隣近所のおじさんにも挨拶ができない子どもたちが、社会とつながっていくのは難しいと思います。私たち大人は、子どもたちのために、子どものうちから多くの大人が関わる機会をつくる必要があると思います。

今まで目が外に向いていて「子どもなんて、孫なんて、別に関係ない」と思っていた人たちに、「俺たちにもできることがあるのかな」「伝えるべきことがあるのかな」という気づきを与え行動にうつしてもらうことが大切です。

例えば、隣近所の子どもに「おはよう」と声をかけてくれるだけで、立派なイク

いっしょにしゃーい



ジイです。天才バカボンのレレレのおじさんのように、誰かが通ったときに「お出かけですか、レレレのレ」と声をかけるおじさんが町に増えるといいですね。声をかけてくれる人が増えると、地域の顔がなくなり、防犯にも役立ちます。そして、何よりも世の中のママたちは子育てが楽になるでしょう。

レレレのおじさんは、自分が持っている時間を、自分の楽しみだけではなく、外に出て道を行き交う人たちに声をかけ、人と人をつなぐパイプ役。私も将来「レレレのおばさん」になればと思っています。

レレレのおじさんは、立派なイクジイ

そんなおじさんが町に増えるといい